

## 令和4年度 第3回自治基本条例推進委員会 議事録

|        |   |
|--------|---|
| 日時     | 令和5年2月15日（水）午後1時30分から午後3時00分  |
| 会場     | 市役所本庁舎 会議室2B  |
| 出席（6人） | 松下委員長、小長谷委員、奥山委員、中野委員、保科委員、北畠委員、向坂委員  |
| 欠席（3人） | 鈴木副委員長、寺本委員、児玉委員  |
| 事務局    | 櫻井課長、緒方主幹、池ヶ谷主任主査、宮澤主査、大石主事   |
| 傍聴者    | なし  |
| 次第     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事（1）第4期自治基本条例推進委員会の活動報告について<br/>（2）次期委員会への受け渡し事項について<br/>（3）令和4年度まちづくり市民集会についての振り返り</li> <li>3 その他</li> </ol> |

| 発言者     | 発言内容   |
|---------|--|
| 事務局(課長) | 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、令和4年度第3回焼津市自治基本条例推進委員会を開催させていただきます。私は本日司会を務めさせていただきます市民協働課長の櫻井でございます。よろしくお願いたします。なお本日、委員の寺本様、児玉様、鈴木様はご欠席でございます。それでは議事に入らせていただきます。焼津市自治基本条例推進委員会規則第6条第1項によりまして、議長は委員長が務めることとなっておりますので松下委員長に議長をお願いいたします。よろしくお願いたします。  |
| 松下委員長   | それでは今日もよろしくお願いたします。まず、第4期の推進委員会の活動を事務局に説明をお願いしてから、ご意見をいただきたいと思ひます。それでは事務局、お願いたします。   |
| 事務局(緒方) | 令和3年4月から2年に渡って、第4期推進委員会としてこのメンバーで活動していただきました。その活動報告案を事務局でまとめました。お手元の資料をご覧ください。1「はじめに」として、推進委員会の概要と役割について記載をし、次に2「第4期委員会の主な活動」として4年に一度の自治基本条例の見直しと提言書の提出、また、まちづくり市民集会開催に関することについて、まとめました。それから最後に、第4期推進委員会のまとめとして、所感と第5期委員会への受け渡し事項を記載させていただいております。こちらについては後の議事（2）で話をさせていただきたいと思ひますので、今は全体的なこと皆様方にご意見をいただければと思ひます。よろしくお願いたします。   |
| 松下委員長   | 今の第4期の活動報告についてもうちちょっと丁寧に説明してください。  |
| 事務局(緒方) | 1（1）推進委員会の概要、（2）の役割は今まで先生からお話しして下さっているところですので、2の今期の主な活動のことについて、読ませていただきます。（1）としまして、焼津市自治基本条例の運用状況の点検および見直しということで、自治基本条例第30条に「市長は、この条例の施行の日から4年を超えない期間ごとに、この条例の規定について検討を加え、その結果に基づいて見直しを行う等の必要な措置を講じます」と謳っていることから、前回の見直しから4年目を迎える令和4年10月までに見直しを実施し、焼津市自治基本条例の運用状況の点検及び見直しに関する提言書を提出しました。この経過につきましては、令和3年度の第3回の推進委員会において、その4年前に出された「意見書」をもとに意見交換をしていただきました。そのときに条例を見直すという趣旨は、条文を変えるということではなくて、運用実態を見直す、運用がうまくいっているかとか足りないところとか、そういうことを見直すことであり、うまく実践する仕組みをたくさん作っていくことが大事であるという結論でありました。その後、3月までに推進委員の皆様に見直しに関するアンケートを実施し、それをもとに事務局で提言書の案を作成し、令和4年度の第1回推進委員会で検討をしていただきました。そして第2回の8月の推進委員会で、提言書の最終確認を実施いたしまして、9月6日に「焼津市自治基本条例の運用状況の点検および見直しに関する提言書」を市長に提出をさせていただき、9月末に決裁されました。 |

|         |  |
|---------|--|
| 事務局(緒方) | <p>(2) としましては、まちづくり市民集会の企画・運営です。今年は1月14日に実施しました。当初は推進委員会と行政と市議会との共催という形でやってきましたが、今は市民集会実行委員会ができましたので、実行委員会が運営していますが、推進委員会でも企画など意見をいただいております、今はみんなでやっているという状況になっております。令和2年度はコロナで中止しております、昨年度はオンラインで実施、今回は3年ぶりに対面式で実施したというような経緯があります。2ページを読ませていただきます。「第4期委員会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、第8回まちづくり市民集会を初めてオンラインによる開催とした。オンラインでの市民集会の実施においても、参加者のつながりが出来上がり、人と地域がつながることの大切さが体感できたことは一つの成果と考える。一方で、オンラインでつながることが出来る人とつながれない人との格差も浮き彫りになった。市民集会に参加した高校生から、地域の人と交流したい、若い力をもっと使ってほしい、などといった力強い発言もあり、若者と高齢者の交流の場づくりや若者が活躍できる仕組みづくりが求められている。今年度開催の第9回市民集会は、コロナ禍にあっても、市民集会を文化と捉え、つないでいくために、規模を縮小し、感染症対策を講じるなど議論を重ね、第9回市民集会は3年ぶりに対面型で実施するに至った。参加者からは、世代間交流や地域で集まる場づくり、情報発信の方法など、つながりや交流・社会参加の機会を求めている意見が多くみられ、地域の受け皿となる場の確保やつなぎ手となる人材育成の必要性を感じている。」ということでまとめさせていただきます。</p> |
| 事務局(緒方) | <p>3番として、おわりにということで、第4期委員会の2年間のまとめとして、「自治基本条例推進委員会は、条例の運用状況の点検と普及啓発に向けた検討に加え、「オールやいづ」のまちづくりを推進していく一つの核としての存在感を高めていきたい。コロナ禍において、人との繋がりも新たな転換期に来ており、新しい生活様式の中で、それにふさわしい仕組みや取り組みが必要になってきている。第5期委員会に向けて、自治基本条例がその足掛りとなり、広く普及していくことを願っている。」ということで結ばせていただいております。</p>   |
| 松下委員長   | <p>はい、ありがとうございます。今日の議論の中心は後でやる第5期への受け渡し事項のところですね。今度10年なので、何かちょっと違うことっていうか、ちょっと階段を登るような、あるいは新しい道を開くようなことをしてみたいと思って。その前段的な意味で、この報告を理解してもらいたいと思うんですね。今後どうするかというのは、次の議論にしたいと思えますけれども、もう一つはやっぱりこの市民集会だとかそういうのを受けて、市民集会のあり方と同時に、具体的に何をやるかっていうことですね。そのあたりが次のポイントになると思うんです。その前段の部分として、本質と根拠はこういうことをしましたということになるわけです。まずこれについて何かご意見とかご質問があればお願いいたします。</p>  |
|         | (委員からの意見なし)  |
| 松下委員長   | <p>では、内容的にはこの通りなので、報告についてはこれをお願いしたいと思います。今日みんなで議論してもらいたいところは、3ページの最後の「補記 第5期推進委員への受け渡し事項」について。受け渡しとはつまり、こんなのをやったらいいじゃないか、というもの。これは第5期の人が決めるんだけど、いきなりでは時間がかかるでしょうし、今までの中で、第5期でこんなことをやったらいいんじゃないか、こんなことを考えて欲しい、ということを出し合おうというふうに思います。それから、来年度はまちづくり市民集会も10回目になるので、新しいまちづくり市民集会も考えたいと思います。議論が一緒になるかもしれないので「(2) 次期委員会の受け渡し事項について」と「(3) 令和4年度まちづくり市民集会についての振り返り」の事務局の説明を一緒にしてください。</p>  |
| 事務局(緒方) | <p>第5期委員会への受け渡し事項ということですが、来年度、第5期でまちづくり市民集会が10回目を迎えます。自治基本条例につきましても、令和6年10月に、年度で言うとその次の年になってしまうんですけれども、第5期委員会のうちに10年という形になり、そういう節目の委員会にもなります。</p>  |
| 松下委員長   | <p>少しずれちゃう感じなのですね。</p>   |
| 事務局(緒方) | <p>10年目の節目ということで市民集会や推進委員会について、ステップアップを図っていただきたいなというところです。その内容としましては、繋がり場の創出として、以前、先生の方からお話いただいているオンラインを利用した若い方との意見交換や、福祉関係者の方との交流会、また、実行委員会の方でも話が出ているのですが、地域ごとに、例えば公民館ごとのミニ市民集会実施など、より実践的な活動を検討していただけたら、ということで、第5期に向けた受け渡し事項ということで挙げさせていただきます。</p>  |

|          |  |
|----------|--|
| 松下委員長    | 要するに10周年目だから、まちづくり市民集会の有り様を考えて、自治基本条例は5期の中で10周年になるから、それに向けて、というかそれに並行してというか、この推進委員会のあり方も含めてステップアップするようなことを考えたかどうかということですね。今日はみなさん、こんなのいいんじゃないか、って思いつきでいいので自由に発言していただいて、そこにヒントを探してみようと思います。5期への受け渡しはそれですね。では(3)の市民集会のことと一緒に考えたほうがいいので、事務局の説明をお願いします。  |
| 事務局(池ヶ谷) | 1月14日に市民集会が無事開催され、皆さんありがとうございました。ワークショップは84人の方に参加していただきました。資料を説明させていただきます。まず資料1はアンケートの取りまとめになります。当日の参加者の84人中、70名の回答がありました。年代が回答者の年代になります。ちなみに実際の参加比率も大体アンケートと似通っていますが、違うのが、50代の参加が18%近くありまして、70代は25%でした。10代と30代の参加がもう少しあると、各テーブルに1人が配置できて、テーブル内の年代のバランスが良いのかなというふうに思います。   |
| 松下委員長    | 若い人がもうちょっといると良かったということですね。20代はやっぱり少ないね。  |
| 事務局(池ヶ谷) | 参加の回数は初めての方は45.7%で、半数近くとなっています。2番で市民集会で自分の思いを話したり、さまざまな意見を聞くことができたか、というところなんですけれども、あまり話せなかったっていう方も2人はいらしたんですけども、概ね良かったかなっていうふうに考えています。   |
| 松下委員長    | 話すことができた。これは、話しに来てる人が多いんじゃないかと思うんだけど、聞きに行くよりね。   |
| 奥山委員     | 見ていて、喋りたい方のオンステージになっているテーブルがあったのが気になりました。  |
| 松下委員長    | そういうテーブルあったね。喋りたいと思うんだな。喋る場が必要なんだよね。1人で一方的に喋ってどうなのかって問題は出てくるけど、ここで一つのヒントは喋り場があったらいいなって思う人が全体のうちのほんの少しだと思うけど、いるってことだね。みんなと話しているんな意見が聞けてよかった、という人もいますよね。   |
| 事務局(池ヶ谷) | アンケートで4番の気持ちで変化した点や5番の感想は本当にたくさん書いていただきました。  |
| 松下委員長    | なかなかいいなっていう意見はどうでしょう。  |
| 事務局(池ヶ谷) | 個人的にですが、学生さんで「住みやすいまちにも様々な定義があって、いろんな人と話すことで地域創造活動は楽しいなと思いました」とか「自治を身近に感じる事ができた」などそういうふう感じてもらったのがすごく嬉しいなというふうに思いました。   |
| 松下委員長    | 学生で力強い人がいましたね。よく喋っていた。学生の評価はどうでしたか。  |
| 事務局(池ヶ谷) | 半数の方は、また参加したいと回答いただきました。続いて資料2は発表内容シートをそのまま転記しまして、資料3は、模造紙に記入された意見を書き出しています。資料4は、資料2、3に書かれた意見を仕分けしたのになります。「あなたができること」としてはあいさつ、近所の人との会話、地域のイベントに積極的に参加などの交流をはかること、「みんなのできること」は、世代間の交流、人が集まる場所を作る、そのために情報発信をするというのが、大きく3つの柱になるかと思います。その結果、仕組みとしては、居場所作りであったり、情報発信のことが主な意見としてでていました。先日、実行委員会で振り返りをしました。「ワークショップでは参加者が積極的で、これまでの積み重ねの成果がでたと思う」という感想や「皆が意見を言えた。何かやりたいという声があがるとよい」といった感想ができました。また、仕組みに書いてあることは、やれそうなことだけれど、後押しする人、実現する人は誰なのか、という意見から、実行委員会の役割について、議論になりました。ひとつは、市民集会を開催して、みんなが思っていることを見える化することが役目、という意見ともう一つは、その先を求めていきたいという意見で、結論は出ませんでしたけど、まずは、市民集会で意見をどこに届けるのか、そこが大事じゃないか、ということで、今までは市長報告とホームページの掲載でしたが、新たに、議会や自治会連合会への報告も行うこととし、発信を積極的に行うことになりました。 |
| 松下委員長    | ワールドカフェについてのいろんな資料がありますが、これはどうなのか、と気になることがあったらお願いします。  |
| 北島委員     | 今回のテーマが、「住みたいまちは自分たちでつくろう」だったのですが、この資料4を見ると、自分で作る感じを受け取れないというか、誰かやってくれるだろうみたいな、結局そうなっちゃってるんですね。それはちょっと気になるところです。   |
| 松下委員長    | そうですね。ほかに、ちょっと感じたことでもよいので、言ってもらえばと思います。当日参加しなかった人がこれを見てどうかな、って。なんでもどうぞ。奥山さん、司会やってどうでしたか。   |

|         |   |
|---------|---|
| 奥山委員    | <p>楽しくさせていただきました。前回、実行委員会の方でもお話をさせていただいたんですけども、感覚として、この議論の後どうなっているのか、ということ強く求められているような。それはすごかったですね。前回の実行委員会でも、実行委員会の中でできること、やっていける部分はやっていったらどうだ、っていうような、かなり積極的な意見も出たんですけども、ただこの実行委員会の位置づけは市民集会を開催するっていうのが目的に作られてるようなので、検証や実際の実務をやっていくっていうとなかなかちょっと難しいかなっていうところなんです。個人的には議員さんを中心に僕がいいと思いますが、検証委員会があればと思います。これらはものすごく貴重な意見の集約だと思うんです。この中で、すぐにでもお金をかけずに実行可能なものも含まれていると思います。そういったところで、先ほどの意見でも誰がそのリーダーシップをとってやっていけばいいのかっていうのも含めて、皆さん、市民の皆さんから選ばれた方たちですので、その方たちに「これは俺が得意分野なんでやっていくよ」っていうようなことでリーダーシップを発揮していただいてこそ、市議会議員さんの役割、立場等々も、具体的に市民の方に伝わっていいふうになっていくんじゃないかなという個人的な希望的観測を持った次第です。とにかく9回目ということで、今まで意見を出したことで満足された方も、それがどうなって、市民生活に生かされてくるのかっていうところまで求められてきているのかなっていうのが肌で感じたところでもあります。</p>  |
| 松下委員長   | <p>はい、ありがとうございます。今の話をちょっとみんなでしたいと思います。元々、市民集会の位置づけは、みんなで見えよ。そういうことが目的で、何かを実現しようとか、何かを具体化しようとかっていう制度ではないというのは元々のスタートなんだけど、みんな話して、その後どうなったのかっていうふうにするのは自然なことだし、条例にはそう書いてあるけど、できる範囲で具体化していくことは悪いことじゃないので、そのようなことを考えていこうという話は当然なんです。これはね、こういうのを作ってるのは、ここと愛知県の新城市なんだけど、両方、どこでも同じことができるわけ、当然ながら。今、具体的に話があった仕組みね。それはね、なかなか今まで出たことがない意見で、議員が良いかどうかは別にしてもね、何か検証っていうのか、推進っていうのか、そういう仕組みを作って、これは例えば、出来てるのか、何故出来ないのか、どうすれば出来るのか、みたいなことをやって行ったらいいんじゃないかっていう提案だと思う。各論で議員さんに、という話になるとそれはかなり技術的なことなんで、本当にそれがいいのかわかっていうのは、何をやるかが決まって、それをどうすればうまくいって次の話だから。今の話の要するに検証というのかな、現状とか進捗状況、課題、展望とかね、そういうのを考えてみたら、考える機会、仕組みを作ったらどうかっていう、そういう話だね。それをちょっとみんな考えてみたいと思う。どうですか。例えば、「回覧板以外の情報ツールを活用しよう」ってありますね。そういうのあったらいいな、とみんな思う。回覧板だけでも駄目だからプラスアルファしたい。そうするとその現状はどうなってるかと思うんです。例えばそういう話だったら市はどこの対応するのか。</p> |
| 事務局（課長） | <p>市政情報でしたら、市のLINEがあります。</p>  |
| 松下委員長   | <p>そういうのを確認して、今、してるものもある。そうすると、それに対してもうちょっと変えた方がいいんじゃないのかっていうのも出てくるじゃん。それは大変だよ。だから現状、どこまで来てるのかっていうのを確認する手段というふうになったらどうする？有効性、効果性、効率的なのかわかっていうことだったら。</p>  |
| 事務局（課長） | <p>LINEであれば登録者数であったり属性とか。ホームページであれば、アナリティクスのデータはかなり取れると思います。</p>  |
| 松下委員長   | <p>担当課に投げて、検証のためにそういうリストを作るのかな。例えばそういうことをしないと提案できないよね。</p>  |
| 奥山委員    | <p>具体例を出させてもらおうと、去年の台風の時、焼津市から十何回アラートをさせていただいて、隣の市では何もなく焼津市はすごい、という話があった。ただ、やはり市から流すと広域になってしまうので、特にうちは東益津なんですけど、浜当目、岡当目の辺りというのはかなり浸水がひどくて、床上浸水の床上1mっていうお宅もありましたが、それこそそのような時だとすると、自治会単位ぐらいのLINEのグループとかがあって、ここのところの地域は本当に危機的ですよっていうようなのが、少ない単位だからこそ、より危機は伝えられると思います。SNS、ネットの一番強いのが、同時配信で一気に情報が伝わるっていうのがあるので、災害対策にも使える、そのためにはお年寄りで、設定そのものがなかなか難しいところでは、学生さんの力を発揮していただいて。自治会単位とかコミュニティ単位でそのようなことができれば、災害だけじゃなくて、お祭り来てよとか。</p>   |

|          |   |
|----------|---|
| 松下委員長    | その話は要するに、これは特に大事だとか、これはみんなのニーズが高いものを見つつ、そのための仕組みを提案していったら、目に見える形で具体化するんじゃないかと。全部やるじゃなくてそのようにわかりやすい例を挙げてね、やったら効果的なんじゃないかって話だよ。それだったら割とできるね。この中にいっぱいメニューがあるだろうけど全部やりきれないから、大事だったり緊急性が高いもの、ニーズが高いものに絞って、その提案をしてみる、ということか。  |
| 事務局（課長）  | 考えたいですね。LINEも、欲しい情報を選ぶことはでき、お住まいの地区を選択ができて、その地区の方に明日は不燃物の日ですって個別で送ってるんで、そういったものを利用して災害に生かすってのはとてもいいんじゃないかな。   |
| 松下委員長    | そういうのを提案してやってみると、ここから出たやつが具体的にやりました、になる。  |
| 奥山委員     | 焼津市のLINEの登録者数が、市民の数を超えています。すごい財産ですよ。  |
| 松下委員長    | 今のLINEを使うメニューを考えてみるって言うと具体的だしさ、みんな議論しやすいよね。   |
| 事務局（課長）  | やりやすいと思います。防災無線というのは、エリアごとに出せますが雨が降っていると聞こえない、そういう課題があるんでそれを補うにはすごくいいなと思います。  |
| 松下委員長    | いいアイデアだね。検討したやつの中から、目に見える生活のそういう具体的な問題にして、いくつかやってみたらいいんじゃないかと。発想がいいね。実践的。私はどうしても体系的に考えて話が大きくなってしまってる。みんな今みたいなアイデアないの？   |
| 向坂委員     | 10回目ということで、例えば、過去に発表して下さった話題提供者に忘れてないよって意味で感謝状を出すのはどうでしょう。それから、第10回記念でポスターやマーク、標語の募集をして、良いものを表彰して何かプレゼントしたら、もうちょっと盛り上がるかな。  |
| 中野委員     | せっかくこの資料を読むとたくさんの意見が出ていますので、この中で例えば三つ選んで、市民の方に投げかけて企画書を募集してどんなふうにしたら実行できるかっていうプレゼンテーションをやったら面白くなって。それで向坂さんが言った、賞があったら楽しいのかなってのは思いました。あと、高齢者と中高生との交流の機会を作るっていうのは載ってるんですけど、各地域にミニデイをやられてるっていうのを聞きましたが、そこにはボランティアさんとして中高生は参加してないんでしょうか。うちの子が通う体操教室には市のボランティアで中高生の子たちがいつも参加して下さるんです。そんな形で、高齢者の方のところにも、もしかしたら募集がかかっているのかもしれないんですけど、そのような仕組みがあると、いいなって。いつも本当にありがたいと思ってるので、中高生のボランティアの登録をうまく活用できればいいのかなと思いました。 |
| 松下委員長    | うん、いいですね。   |
| 北島委員     | さっきも言ったんですけど、みんなのできることで、やる人はやってるんですよ。だから、例えば世代間交流とか、やる人はやってるんで、そういうプレイヤーが少ないだけなので、プレイヤーを増やさないといけないんだと思うんですよ。なのでせっかくこういうアイデアを出した人が、アイデア出すで終わってるので、その次の一歩を踏み出すのを手伝う。仕組みがないから、アイデア出して止まっちゃうっていう、だからそういうコーディネーターというか、伴走する人が足りないのかなと。例えばこの中からこういうアイデアがあったので、これを実現する。人を集めて伴走してあげるっていう仕組みを作って成功体験をしてもらうのがいいのかなと思います。   |
| 松下委員長    | そうすると、この9回目に参加した人に投げかける。参加者名簿ってわかるでしょ。それはまた手紙出してもいいのかな。   |
| 事務局（池ヶ谷） | アンケートで次の市民集会開催案内について希望をとっています。  |
| 松下委員長    | なら個人情報問題は問題ないね。だからそういう人たちに、実行の仕組みがあるからやってみない？っていうことを投げかけるのが一つ。それから次の10回目でも、10回目のテーマは何かは別にしても、今度は一緒にやりましょうっていう、繋げて提案をその中に入れて、言ったらやるぞ、言ったらできるぞっていうような集会にしたらどうかってことだよ。どういう風にやるかはちょっと難しいけど、そういう発想で考えてどうかと。それはいいこと。  |
| 小長谷委員    | 最初の提案みたいな形になってるので、誰かが言ったように、これはいくつかテーマを絞って具体的にするにはどうしたらいいか、こうしたら自分はうまくいくと思うっていうのを喋ってもらって、賞をだすとかね、そうしてこれならできそうだなって次の段階へ行くという形にすれば、次のステップへ行くんじゃないかなって感じがします。  |

|         |  |
|---------|--|
| 小長谷委員   | テーマを決めてまだ言葉に止まっているので、具体化するにはどうしたらいいか、提案があったら言ってください。多分言いたい人は必ずいるのでそれを言ってもらって、評価する。これだったらできそうだなというのを評価して賞をあげる。次は実行に向けて次の段階に行くという形にすれば10回目で、その翌年か翌々年ぐらいには賞をもらったのは具体化していくよ、ってというような形でやってもいいかなという気がします。  |
| 松下委員長   | そうすると仕組みがたくさん出てるけど、少しこれ絞り込んで、次の委員会で実現できるものを三つとか四つとか選んで。実現可能性があって効果があってというのを次の委員会でだして固めて、それをベースに、今度は次にやりたい人ややれる人に声掛けしていくって、そういう話しかな。  |
| 小長谷委員   | それに近いです。   |
| 松下委員長   | そんな感じにしたら、先に進むんじゃないか。これさ、たくさんあって目がくらむんだよね、皆それぞれもっともだから。その中で奥山さんが最初に言ったように、ある程度絞ってさ。さっきのは本当に可能性あるし、いいと思うんだけど、そういうのを探していくっていうのは、話が進むんじゃないかな。提案を具体化できるようなことを抽出してそれを進めていくための道筋をつけるみたいな感じになるのかな。そういう風にしたらどうだろう、っていうことなんだね。  |
| 保科委員    | 先日の実行委員会で、終わると雑談しながら帰るんですけども、何かやりたいよねって、せっかく出したのに、というのが何人が聞こえてきてね。だからやっぱり参加してる人たちは、その思いで来てる。この後のこと知りたいね、やっていきたいなっていうのが、気持ちとしてあった。もう一つは、今話しているということかと思ったんですけど、この推進委員会と、実行委員会の位置関係で、この委員会は2回か3回で、実行委員会は何回もやって、実行委員会があればいいじゃんみたいな感じになってたんですけど、今話をしていて、それが次の実行委員会に取り上げられていくんだなっていうのが、2年経ってやっとわかりました。   |
| 松下委員長   | 正式な会議だから、ここで決めたことの影響力は大きいですよ。だから逆に言えば軽々に決められないということ、実行できなかったらね。  |
| 保科委員    | 今までのまちづくり市民集会は、先生が言われたように、みんなで考えようって、そこまで終わっている。みんなで考えてどうするの？まではいかなかったの、次に進めていければいいな。焼津のまち全体で捉えるのが一番いいんですけども、環境問題とか、さっきの災害とか子育てとか、福祉、何かそういう特化したのもあっていいのかなというふうに思います。   |
| 松下委員長   | 集会は年一回だけかもしれないけど、そこで考えることは数年のことだから、ミニ市民集会やったっていいよね。災害も福祉も、いずれにしても情報と繋がり、交流が問題で根っこは同じ。それを分けて考えてみたら面白いね。櫻井課長はどうですか。  |
| 事務局（課長） | 話がずれるかもしれませんが、いろいろお話を伺って、プレイヤーが少ないとか実際ありますが、そういう意識を持っていただける方とか、それが当たり前になって、考えていただける方を増やしていかなければいけないっていうのはすごく思っています。今回、こういう話し合いを皆でやるのもそうですし。何かそういう環境作りっていうのはこれやっていかなければならないなって強く思いました。市民集会は、最初の頃より、皆さんのレベルというか、中身が良くなってるといってお聞きしましたので、10年やって積み重ねた、言い換えれば、一種の教育みたいなのところがあると思うんです。ですから今度子供たちに、何かやる時は皆で話し合ってるんだよ、それで自分でやるんだよっていうのを知ってもらおう動きっていうのが、そういう種をまくっていか、そういうのをちょっとやっていかないといけないのかな。そうすればあと10年20年で、そういう人たちが大人になったときはそういうの当たり前の社会になってくれば、わざわざワールドカフェを開かなくても、各地区それぞれで小さな市民集会所ができて、それが当たり前になってくるっていうそんなふうにしたらいいなと思って、それに何かできないかって、そんなことを考えました。 |
| 松下委員長   | はい、ありがとうございました。今、別の会議でも担い手ね、コーディネーターとか、あるいはその地域単位での話とかあって。ちょうど今、焼津は過渡期なんですよ。だからそういうタイミングで集会もあり、みんなでちょっとアイデアを出してもらいたいということですね。では、緒方さんはどうですか。  |
| 事務局（緒方） | 皆さんがおっしゃってるのはすごい参考になったなって。やっぱりコーディネーターを作るとか伴走する仕組み作りですか、その意見の中から仕組みを絞り込んで、まず実現できそうなものを、出してそれをベースにやりたい人ややれる人を引っ張っていく。そのあたりだったらできる、って思っているところです。   |

|       |   |
|-------|---|
| 松下委員長 | 今話聞いていたら、できそうだなって感じじゃないですか。私も役所ができるかどうか大体わかるので、今の話はできそうだなという感じ。だから、それを委員会が後押しすれば、事務局の方もね、伴走なんだけど、具体的に進めていきたいと思うんですね。とにかく10年目は具体的な見える化、そういうのを目指していきましょうか。次回第5期になったときに、最初のときに手戻りがないような議論の進め方ね。例えばこのなかでいくつかグルーピングして、これができそう、できないかとかってというのは判断できる素材を作ってもらって、戻らない議論ができるようにしてもらいたい。いつも1回目が遅くなっちゃうと、結局集会の準備みたいになっちゃう。   |
| 松下委員長 | そうすれば、実行委員の人たちも、あるいはこれからまた参加しようとする人たちにも、一回きりじゃないよって、見えてくれば言える。今回はそうしたいですね。ほかはどうでしょう。  |
| 奥山委員  | 学生さんのことで、どなたかおっしゃってるのがすごく印象的に思っています。今の学生さんって、ボランティアに関して、非常に積極的というか前向きの方が多くなって伺ったんですけど、ボランティアをやりたいんだけど、どこでやってるのかわからない子たちが増えるんじゃないのかな。この掘り起こし、要はニーズがマッチしてるかどうかっていうとこだと思うので、何とかマッチできるような仕組みも考えていければ。   |
| 松下委員長 | まさにそうですね。具体化の中での話になるんですけど、役所も市民の人たちもいろんな活躍の機会を持ってるんだけど、例えば人の募集とかね、これやりたいよと。こっち側にはやりたい人がいるんだけど、これがミスマッチで、繋がらないわけです。具体的に言うと、例えばボランティアの募集情報は、役所では福祉、市民活動、災害もそうだけど、縦割りなんです。そういうのを、例えばネットでキーワードで検索すると出てくるっていうシステムがあれば。今はまずネットで調べて、自分はどうか考えるわけですよ。だから仕組みが欲しいなと思うわけです。例えば補助金は知ってる人しか利用できない。東京だったら、キーワード検索して補助金がバーっと出てきて、これはいけるなっていうと、探す手間とか、あるいは今まで特定の人しか使わなかったものも、他の人でも使えるなって。そういう時代ですね。それは補助金だけど、同じようにボランティアや市民活動も大体ネット調べている。そういうのをしっかりやりたいと思っている。 |
| 保科委員  | ボランティア部みたいなのがあるって話もあるね。   |
| 松下委員長 | だからやりたい人はいるし今の子供は私達と違って、教育がしっかりしてるから、そういう教育してるから。私の時代はいい大学行って、自分で金持ちになる、ってそういう時代じゃないですか。だから、ボランティアと公共心は、後からつけた知識ですよ。大人になってから。だけど今の子供は身につけているから裾野は広いですよ。だからちょっとした機会があれば。今ボランティアやったら社会的に評価されて入試とか有利だからね、メリットもあるし。だからいいと思う。  |
| 中野委員  | ボランティア登録すると、学校から手帳がきます。   |
| 北島委員  | 中学校にボランティアをお願いしたら、自治会で自分で集めてくださいって言われたんですけど、何か仕組みが違うんですかね。  |
| 中野委員  | 焼津市に青少年ボランティアがありますよ。自分の娘のときだと、花火大会の片付けとか公民館まつりのお手伝いとか、本当にいろんなことがあって。そういうのを利用する方が知らない、ということですね。  |
| 松下委員長 | 知ってる関係だけでやってるから。それを簡単に知ることができる仕組みを考えてくれれば。いきなり聞くのは嫌だから、まずネットで調べて大丈夫かなって調べる人は調べるじゃん、安心して頼めるなって思えば、行くじゃん。   |
| 中野委員  | 一般の方にもそういうのがあるといいなって思います。   |
| 松下委員長 | そういうふうな仕組みっていうことだと思うんですよ。   |
| 北島委員  | 前は学校通していただきって言われていたので。そうなんですね。  |
| 松下委員長 | 今のそういう仕組みをね、あったら、ずいぶんと知らなかった人も知る機会になった。初期設定は難しくても面倒だけど、出来ちゃったら簡単。   |
| 奥山委員  | スマホ教室   |
| 向坂委員  | 市民集会で、高齢の方がスマホの使い方がわからないって同じテーブルの男子高校生に聞いたら、彼は最後まで教えてスマホ教室になった。彼は教えるのが嬉しかったみたいで最後までずっと懇切丁寧に教えたらいいです。だから、例えば社協の場所を借りて、高校生のボランティア部の子を講師に招いて、社協を利用しているおじいちゃんおばあちゃんに教えるよって。そうやったら来てくれるんじゃないかな。老人会のお便りを代わりに作りますとか、講習会みたいのもやってもらったらいいんじゃないかなと。  |

|         |   |
|---------|---|
| 中野委員    | 頼られるって嬉しいですね。   |
| 松下委員長   | 基本は自己有用感だから。自分は有用だというのは一番の自信だから。たくさんはできないにしても、2、3、メニューのなかから効果的で、今言ってる若い人の出番があり、効果がありというのを判断して、やっていったらどうか。具体化を目指しましょうよ。  |
| 奥山委員    | 特にハードが関わってくると一般の方は難しい。例えば施設を改修するとか予算がかかってくることに關しては、議員さんの得意分野なのかな。   |
| 松下委員長   | これはちょっと難しい。議員さんも意見にかかわっていく、っていう仕組みだよ。議員さんが仲介みたいになると問題があるから、そうじゃなくて、自分たちも一緒になって当事者になるような仕組み。そういうのも考えた方がいいな。  |
| 北島委員    | 当事者意識を持つためには、参加をしないと当事者意識ができない。その当日だけ来ても、当事者意識は持てないので準備の段階から関わらないといけないのではと思う。   |
| 松下委員長   | 主催者だとしたら、そういうことだよ。それは行政からは言いにくいから推進委員会から言わないと。新城市は議員さんが実行委員に入って一緒にやってる。   |
| 向坂委員    | 立場の違う議員さんがいると、よその地域はこうだった、というのも意見として出てくると思うので、ぜひ入ってもらったらいいと思うんです。   |
| 松下委員長   | 委員として入ってくると、今みたいに期待されるわけですね。知識や知見も。実行委員に議員さんも一緒に入ってもらいたい、これも一つの課題だよ。  |
| 向坂委員    | 地域の代表の方とか、議員さんとかいろんな立場の方が入るといいのかな。それを地域に地道に広めていったりSNSで広めてたりするといいかなって思います。   |
| 松下委員長   | 委員会のあり方は課題じゃないかな。   |
| 中野委員    | 先生、一つ悲しかったこと、いいでしょうか。16テーブルあって、資料を何回も読みましたが、障がい者に触れている意見がなくて、やっぱり障がい者って本当はかなり少ない人数で高齢者と一緒になってるのかなって思わなくもないんですけど、私は当日行きたかったけれど行けなくて、来年は障がい者の友達とかにも声をかけて参加するように言ってみようかなってすごい思いました。静岡新聞に載りましたが、若者と高齢者を繋ぐみたいなことで、主人と見て、やっぱりそうだよ。そうなるよね。そこで障がい者って載ってこないよねって話を私達も積極的に外に出ていかななくちゃいけないあと感じました。ちょっと寂しかったです。  |
| 松下委員長   | 参加していたら、気持ちが行くよね。そうすると広がるよね。目の前は高齢者と若者しかいなかったから。  |
| 中野委員    | 皆さんがどうのこののじゃなくて私達もっと本当に積極的にいろんなところに出ていかなきゃいけないということ、これだけ意見があるのに一言もないのが、ちょっと本当に寂しかったです。聴覚とか視覚とかっていう方もたくさんいらっしゃると思うので、そういう方も出られるようになるといいなと思います。   |
| 松下委員長   | 私のところの学生で、市民集会に出た子がいて。聞こえないわけではないけど非常に耳が不自由だっていう話をして。参加してるとね、皆さんそういう話になってね。一生懸命やるから、すごく共感っていうか、理解っていうのが進んでね。本人も自信を持ってね。みんなの前で、みんなと一緒に、町おこしをやって。そういうものに参加して、一生懸命やった。焼津の人に対してはさ、彼女はすごく印象的だと思うよ。もう卒業したけれど。一緒に行って皆で話を聞いてもらった。大勢の中でね、聞いてもらって話ができたっていうのもこれ印象的な、ずっと忘れないと思う。そういう場面もあったことを今思い出しました。今日はいろんな意見をいっぱい出してもらって、こういう意見の中から集約してね。今いくつかヒントが出たので、実現できるものを絞り、うまく次の議論できるように資料整理をして行けばいいんじゃないかと思う。そのように進めたいと思います。 |
| 北島委員    | ちょっといいですか。目指すゾーンというのを定期的に確認したいのですが。焼津市は対話でまち作りしようって言うんですけど具体的にもうちょっと目指す像が見えない。そういう対話をどうやってしてまち作りをするんだよっていうのを、ちょっとすり合わせをしていかないと、毎年毎年ちょっとずつ変わってるんだと思うんですが。  |
| 松下委員長   | 櫻井課長  |
| 事務局（課長） | 難しいですね。仕組みが必要かなと思います。   |



|         |  |
|---------|--|
| 松下委員長   | それは今、明確にやることは議論している最中だけど、やっぱり対話で、聴き合いのまち作りっていうのをやっていかなかったら町はもう続かないとはっきりしてるんで。そうは言っても今までの延長線もあるし。今その議論をしているところなんです。それはおっしゃる通り、もっと明確に打ち出せたらね。迷わずに、あるいはときどき確認しながらできるように。今やってるまち作りコーディネーターなどもその一環だから。  |
| 事務局（課長） | 協働から共創になっていくんじゃないかと言われていて。要するに話し合いをして、今までは協働で、行政といろんな団体が一緒にやってるんですけども、これから共創の時代だと言われていて、お互いが話し合っただけでその中でいろんなものをやっていきましょう。ただ協働ではなくてっていう流れが、あるようなことも聞いてるんですが、そういう世の中になってるんですよ。   |
| 松下委員長   | 今、原稿を書いてくれて言われていて。まさに共創の時代だということで。共に創る。協働というのは元々本当はそういう意味なんだけど、どうしても一緒に何かやるというふうなイメージになっちゃって、新しい言葉で「共創」。でも、ずっとこの自治基本条例で最初からやっているのは、一緒に創っていく、ということで間違いない。共創という言葉がわかりやすかったっていうのもあるんだけど、要するに言うだけじゃなくて形作っていかうっていう、みんな力を合わせてね、それぞれ強みを発揮して作っていくってことだと思う。では、議事に戻りたいと思います。 |
| 事務局（課長） | 委員長ありがとうございました。続きまして「3その他」に移らせていただきます。事務局から連絡がございます。   |
| 事務局（緒方） | この推進委員会につきましては2年任期となっております、第4期の推進委員会につきましては、今回の会議で終了となり来年度から第5期推進委員会が始まる形になります。現在、委員の公募を行っておりますが、先ほどのお話の中にもありましたように、来年度は市民集会在10回目また、条例制定10周年ということで節目を迎えることから、皆様方におかれましては、ぜひ引き続きお願いできればと思っております。松下先生も一緒にやってくださるということですので、また皆様ご検討の方をよろしくお願いいたします。                    |
| 事務局（課長） | 以上で、令和4年度第3回焼津市自治基本条例推進委員会を終了いたします。委員の皆様におかれましては、この2年間、焼津市自治基本条例に真剣に向き合い、より良い焼津のまちづくりのために多くのご意見をいただきましたことを心より感謝申し上げます。今後も、焼津市自治基本条例の普及に関し、ご支援、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。  |